

原町成年寮地域生活援助センター
生活介護事業所 アンジュ

平成 22 年度

事業総括

1. 運営のまとめ

今年度、生活介護においては7月より定員を60名としたが、定員を増やすことで活動場所をあらたに設けることになり、職員を分散配置する結果となってしまうこれまで以上に職員間の連携が必要とされた。

身体、精神疾患を伴う利用者への対応と定員の1/3は60歳以上で高齢化と疾患による機能の低下もみられ、出入り口及びトイレへ手すりを取り付けるなど環境整備を行った。

また、食事、歩行、排泄と行ったところで重度利用者に加え軽度利用者への見守りや介助に要する時間も増え、活動場所の安全を確保するため状況に応じた職員体制で臨んだが職員に負担が掛かりヒヤリハットに繋がる結果となってしまった。

活動面では、利用者との懇談会を実施し創作活動、行事といったところで要望を反映し利用者一人ひとりの個性を引き出し、自主性、主体性といった理念に基づいた取り組みを行うことができた。

モモズレシピにおいては、ここを拠点とした地域との交流をおこなった効果もあり地域行事への参加依頼もあった。地道ではあるが地域の中のパン販売の店ではなく、ハンバーガーショップというイメージが定着してきている。

今年度は職員不足の面もあったが、契約利用者以外にかつしかセンター及び他施設からの依頼による実習社の受け入れもおこない援助センターのなかの生活介護事業所としての役割を果たすことができたと思われる。

2. 活動内容

① 機能訓練

利用者の心身の状況に応じて機能訓練を行ったが、スペースが十分に無い為、継続的に実施するのが難しかった。

天候が良い日はウォーキングを行った。個別に本人にあった距離とペースを考慮しながらウォーキングを実施した。また、肥満傾向にある利用者を中心に運動をかねて、タオル配達を徒歩で行った。

② 創作活動

今年度は、月ごとに創作活動の日程をプログラムしたことで、定期的に行うことができた。

利用者からアクセサリー等の作りをやってみたいと要望があり、希望した利用者10名で4月からビーズを使ったアクセサリー作りの活動を始めた。細かい作業である為、年齢的にビーズの穴が見えにくく肩こりや疲れが見られることがあった。7月からは、部材が大きめのクラフトバンドを使った籠づくりに切り替えた。

活動を見て興味を持った4名の利用者から活動に参加したいとの希望があり、秋から加わって14名で行った。

少しずつ形になっていく作品に毎週楽しみに取り組み、個々のペースで時間をかけて作り上げた作品が完成した時には、とても嬉しそうな表情が見られ、達成感と満足感が得られている様子だった。

壁面装飾は、作業活動が空いた時間などを使って皆に制作に参加してもらった。季節を意識しながら、折り紙を中心に貼り絵、ロールピクチャーなど指先を使う細かい作業をコツコツと行い大きな作品を作り上げた。

10月には、小さく丸めた紙粘土を絵に貼りつける、紙粘土アートにも取り組みハロウインのオブジェを完成させることが出来た。

完成すると利用者からは「次は何をやるの?」と制作を楽しみにしている声が聞かれた。

クッキングは、最初は一度に全員で行っていたが、利用者が増えた事でフロアが狭くなり、安全性に配慮し、午前・午後に分けて行った。

また、少人数の班に分け、班ごとに職員が付き作り方にそって勧めていった事で、今まで消極的で手を出せなかった利用者に参加してもらう機械が出来た。色々な工程が経験できるようにメニューや手順なども工夫し、全員が参加できた。

年末の餅つきは利用者から臼と杵でついでみたいとの強い希望があり、明昭幼稚園から臼1台と杵6本をお借りすることができた。大中小の杵がそろっていた為、利用者の体力などに合わせて杵を持ってもらうことで全員がつく事ができた。普段出来ない体験だった為、利用者から好評であった。

ビーズ&クラフトバンド			
4/6	ビーズ:プレスレット	7/6~8/10	クラフトバンド:かご
4/13~15	ビーズ:キーホルダー	8/23~10/12	クラフトバンド:ポシェット・バック
5/11~6/15	ビーズ:アームバンド	11/9~1/18	クラフトバンド:花挿し・菓子かご
		2/2~3/29	クラフトバンド:大型かご

壁面装飾	
5~6月	睡蓮・菖蒲(折り紙)
7月	七夕(短冊に願い事)
8~9月	海の中(貼り絵)
10月	ハロウイン(紙粘土アート)
11月~12月	クリスマス(ロールピクチャー・折り紙)
1月	お正月(ロールピクチャー・折り紙)
2月	お雛様(折り紙)

クッキング			
4月	きな飴	10月	パンプキンパイ
5月	マシュマロフルーツゼリー	11月	シフォンケーキ
6月	バナナケーキ	12月	餅つき
7月	水ようかん	1月	白玉おやき(梅が枝餅)
8月	ヨーグルトムース	2月	さくら餅
9月	ふんわり蒸しパン	3月	シフォンケーキ

③ 音楽活動

毎回、参加するメンバーの楽しみの時間になっている。

講師が奏でる音楽に合わせて、楽しんで楽器を鳴らしている様子がよく見られた。

勤労福祉館の一室を借りての活動となり、広い空間で部屋を自由に歩いて音楽を楽しんでいる様子もうかがえた。

④ 生産活動

今年度は作業場が三カ所での活動となった。

三カ所で同一の作業を行うことは、部材の管理や、全体の進行状況の把握が難しくなってしまう事が予想された為、請負元の協力を得て極力複数の作業を受注した。

複数の作業を同時にもらうことで、各作業場の能力や規模に見合った作業を注文毎に振り分ける事が出来、このことで全体としての作業の効率化を図ることができた。

また、請負元との窓口となる職員を決め、その職員を中心に作業の進行を連絡しあうことで、円滑に請負元との調整や急な納期変更への対応も一部可能となった。

個別能力の向上、また、希望者への対応については本人の希望に添えるよう配慮はしたが、作業場ごとの利用者の能力や人数、関われる職員数の違いにより対応出来ない場合もあった。

一部の作業場に於いては、他の作業場と比較し、身体的支援の必要な利用者が多くなり、かつ職員一人あたりの受け持ち利用者も多くなってしまった為、既存の能力に合わせた作業を提供することは出来ても、作業能力を高めるような支援は出来なかった。

一方、職員あたりの利用者数が少ない作業場では、本人の希望があればある程度時間を掛けながらの作業訓練が可能であった為、部材の配置や作業への入り方、すぱール、補助的な道具の活用などを試行しながら作業能力の向上を図っていくことが出来た。

年間を通して請負元との連絡は密に取っていたが、請負元の状況により受注量が減少してしまう事があった。

受注が減少した期間は、散歩、創作活動、学習や利用者の希望を聞き映画鑑賞等の活動を行った。

⑤ 販売活動(モモズレシピ)

今年度は、バンズを外注に切り替え月曜日の営業を開始し、メニューや価格の見直しを行った。ハンバーガー作りでは利用者が主体となり、バンズの焼き担当、パティの焼き担当、その他の補助と分かれお客様への提供を行った。

9月より職員が3名体制から2名体制となり、地域への注文販売が困難となってしまったが、チラシ効果もあってか電話注文やリピーターのお客様も増えた。

また、地域のお祭りには利用者と共に積極的に参加し地域交流を行った。今回、リピーターのお客様からのお誘いがあり、立石商店街主催の立石フェスタへの出店依頼もあったが一部出店者の理解が得られず出店することはできなかったが実行委員会の方へのホットドック、ハンバーガーの納品を行った。

10月にレジ内の釣銭が1万円不足することがあり、臨時に職員会議を開き、スタッフ全体にレジ操作の徹底、金銭管理について話し合いを行った。

また、食中毒予防のための細菌検査(検便)は、毎月実行した。

*地域まつり

4月25日	(日)	Good Stock	(緑地公園)
6月25日	(金)	区役所販売会	
9月4日	(土)	立石フェスタ	(実行委員へ納品)
10月24日	(日)	やまも祭り	(奥戸福祉館)
10月31日	(日)	コラボかつしか	(市民活動支援センター)
12月14日	(火)	区役所販売会	

⑥ その他の販売

卸しお茶販売は、デイサービスセンターなごやか小岩、亀有第2から定期的に注文が入ったが、前年度まで注文いただいていたデイサービスセンターなごやか江戸川、亀有からの注文は無くなった。毎月の注文も少なく売り上げも伸びないため今年度でお茶販売を終了する。

⑦ 受注作業及び販売収入

・受注作業収入

(株)東栄社	¥2,124,025 円
(株)ピースワーク	¥212,171 円
レンタルタオル配達	¥96,000 円

・販売収入

お茶	¥188,040 円
momo's	¥2,414,198 円

3. 年間行事

利用者懇願会でどんな外出がしたいか聞き取りを行い、要望が高かった東京ディズニーシーとしながわ水族館の2コースを選択してもらい外出した。しながわ水族館は重度グループとそれ以外の利用者の2日にわけて実施した。

また、利用者全員で外出したいとの要望も多くあった為、日帰りバス旅行を計画に取り入れた。日帰りバス旅行は、茨城県ポティロンの森に行き、パンとバター作りを体験した。

製造体験が初めての利用者も多く、興味を持って参加している様子が見えた。

5月19日	東京ディズニーシー
6月19日	しながわ水族館①
7月7日	しながわ水族館②
10月6日	ポティロンの森(茨城県稲敷市)

4. 健康管理

高齢者も多いことからケアホーム職員との情報交換や通所後に体調の観察をおこない必要に応じバイタルチェックを実施するほか、月末には体重測定、血圧測定を実施し体調の変化には気を配り、年間を通して手洗い、うがいといったところも徹底し感染の予防にも努め、さらに今年度は定期健康診断を実施し利用者全員の健康状態を把握した。

また、9月末よりインシュリン自己注射をする利用者が多いため、注射するまでの手順及びインシュリンの単位数の確認を職員に指導し利用者が確実にできるよう環境を整えた。

5. 体験実習者の受け入れ

中学生ボランティア体験実習者の受け入れを行った。

- ・3/4 中川中学校 3名

6. 利用者との懇談会

利用者数も増えたことで懇談の場を設け、利用者からの意見・要望を聞いた。

- ・4/1 事業計画の説明
- ・9/1 懇談会
- ・1/5 懇談会

7. 安全管理

非常時に備え、職員による利用者の誘導を主目的とした、避難訓練を実施した。

4月30日 避難訓練(火災) 12月27日 避難訓練(火災)
6月28日 避難訓練(火災) 3月11日 避難訓練(火災)
9月15日 避難訓練(地震)

8. 職員研修

- ・全国知的障害関係施設長等会議 7/5～6
- ・てんかん・援助セミナー 8/3～4
- ・全国知的障害福祉関係職員研修大会 9/9～11
- ・全国日中活動支援部会職員研修会 12/3～4
- ・人権・同和問題研究会 2/23

9. 第三者評価

(株)にほんの福祉ネットにより第三者評価を受審した。

今年度は利用者聞き取りのみ平成23年1月に行い、3月に評価が出された。

就労移行 月別利用者数、就職者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在籍者数	17	19	19	14	15	15	13	15	16	14	13	12	182
施設外支援	6	6	6	2	2	1	4	4	4	2	1	1	39
就職者数	1	0	2	4	0	2	2	1	0	2	1	1	16

